

令和5年度 ICT活用実践研究 実績報告書

所属校園	附属函館小学校		形態	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 団体・グループ
研究代表者 (申請者)	氏名		職名	備考(分担等)
	鎌田 尚吾		教諭	計画立案・総括
研究分担者 (団体・グループの場合)	菅原 拓 鈴木 悠太 佐々木 雄大		教諭 教諭 デジタル推進 支援員	授業改善・研究推進 業務改善推進 業務推進サポート
	研究題目			
旧来の垣根を越えて課題解決に向かう学校DX ～効率化・一般化を目指す「デジタル推進部」の取組～				
経費支出内訳 (事務の確認を経て提出のこと)				
事項	単価 [円]	員数	金額 [円] (消費税込)	備考 (内訳・特記事項等)
・ Lightning USB ケーブル	2,780	5	13,900	
・ 変換アダプタ	3,542	2	7,084	
・ USB3.1 ケーブル	3,072	4	12,288	
・ Gakken「私たちと情報 情報社会探究編」	506	13	6,578	
・ Gakken「わたしたちと じょうほう 情報スキル 編」	506	13	6,578	
合計			46,428	

【研究実績の概要、得られた成果・効果等】 ←以下に自由記載(報告書全体で4ページ程度に)

1 研究の背景

AI時代を迎え、教師も子供も「ICT活用」の根本的意義を問われている。北海道教育大学附属函館小学校(以下本校)での教育・研究では、教務部を中心とした提案、協議により「業務改善」を図り、また研究部が中核となって「授業改善・研究開発」を推進してきた。学部との技術連携や授業研究の蓄積を進める一方で、その成果を公立校との授業動画の提供(アーカイブや同時配信)やオンライン研究協議などの共同研究に活かしてきたが、同時に各分掌の業務や組織的な取り組みの課題も見えてきた。そこで今年度は、これまでの分掌や役割分担をICT活用によって横断する「デジタル推進部」を発足して、校内のみならず地域のニーズにも応えられる情報づくりを始めた。

2 研究の目的と方向性

本研究および報告では、学部・公立校・附属学校園の横断的な取組を「デジタル推進」の視点で捉え直し、授業や校務の効率化を目指す手立てについて明らかにすることを目的とする。また、デジタル推進を中核とした計画や業務プロセス、研修の在り方、学校間連携の充実を念頭におき、外部へのモデル化を図る上での課題を明確にすることを旨とした。

3 研究の方法と具体的な取組

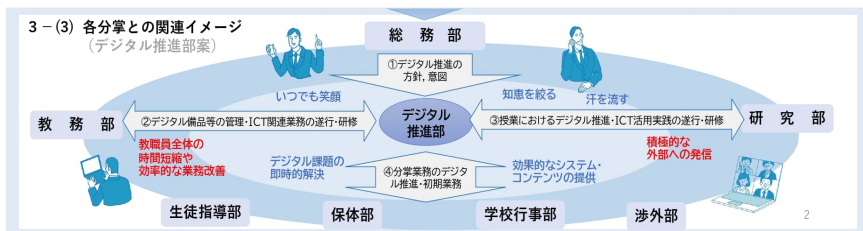
年度当初に活動の方向性を下記の3点に定めた。

(1) 各分掌の業務改善、授業活用に関するデジタル活用の素案・実践例の提供および初期段階業務の充実

(2) 全教職員のニーズをもとにしたデジタル活用に関する効率的な取り組みの共有・充実

(3) 外部への発信や評価をもとにした、本校のデジタル活用・推進の継続的改善

また、デジタル推進部員が「知恵を絞り汗を流し、効果的なシステム・コンテンツを提供する」、
「いつでも笑顔でデジタル課題を即時的に解決する」という方針を示した。かねてから附属校の役割



である「研究活動」「渉外活動」を基盤におき、その上に各種の業務分掌を据えてきたが、「デジタル推進部」はそれらの諸業務を横断的に支える位置付けとして捉えた(図1)。

図1 デジタル推進部による横断的な業務イメージ

したがって具体的に列挙すると、次のように教育活動・学校用務のほぼ全般の活動となった。

A) 業務改善・授業改善

- ① 職員用 PC,
- ② CBT システム・学習 e ポータル,
- ③ 児童用端末・コンテンツ,
- ④ デジタル教科書,
- ⑤ デジタル備品などの各運用,
- ⑥ 情報教育基本方針
(情報活用能力・プログラミング教育の計画も)
- ⑦ 各部の要請対応 (動画撮影, 健康観察フォーム, DC : Digital Citizenship 等)

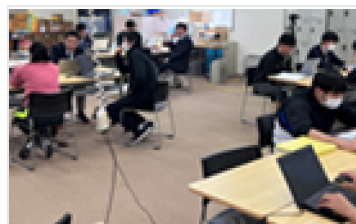


図2 本校職員向けOJT

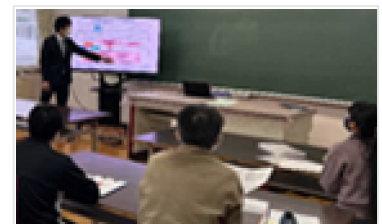


図3 研究交流校への発信

B) OJT や外部との連携

- ① ST(サポートチーム体制)と本校職員向けOJT(図2),
- ② 研究交流校(公立校)への発信(図3),
- ③ 学部や附属学校園, 研究サークル, 外部団体連携

C) 評価・分析

- ① 上記の活動や用務について, 各種データを蓄積
- ② 学習場面や今後の業務へのフィードバック

4 代表的な取組

A) 業務改善・授業改善⑥ (情報教育基本方針)

前年度までの情報教育全体計画を抜本的に刷新して、基本方針とした(図4)。特に、教師のスタンスやメディア特性への配慮、校内環境の整備を示した。

このことで、玄関モニターを活用して情報発信をする

令和5年度 北海道教育大学附属国語小学校			
情報教育基本方針			
<p><授業の展開> 授業の展開は、児童の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促すことを目指す。また、授業の展開は、児童の学習意欲を高め、主体的な学習活動を促すことを目指す。</p>	<p><情報教育目標> 児童が、デジタル技術を活用し、主体的に学習活動を行うことができるようになることを目指す。</p>	<p><評価の観点> 児童の学習成果を、デジタル技術を活用して評価する。また、児童の学習成果を、デジタル技術を活用して評価する。</p>	
<p><重点教育目標> 児童が、デジタル技術を活用し、主体的に学習活動を行うことができるようになることを目指す。</p>	<p><重点教育目標> 児童が、デジタル技術を活用し、主体的に学習活動を行うことができるようになることを目指す。</p>	<p><重点教育目標> 児童が、デジタル技術を活用し、主体的に学習活動を行うことができるようになることを目指す。</p>	
<p><情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項> 情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項を、デジタル技術を活用して推進・支援する。</p>	<p><情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項> 情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項を、デジタル技術を活用して推進・支援する。</p>	<p><情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項> 情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項を、デジタル技術を活用して推進・支援する。</p>	
<p><情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項> 情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項を、デジタル技術を活用して推進・支援する。</p>	<p><情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項> 情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項を、デジタル技術を活用して推進・支援する。</p>	<p><情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項> 情報教育に関する取組の推進・支援の取組事項を、デジタル技術を活用して推進・支援する。</p>	

図4 情報教育基本方針

こと(図5)や日常的に教師がデジタルを活用して子供のDCを形成していく方向性ができた。



図5 玄関モニター活用

A) 業務改善・授業改善⑦

(各部の要請対応：保健体育部・健康観察フォーム)

日付	番号	名前	体温	体調	持ち物	爪	顔	健康観察時間	記録時間	提出物	先生に伝えたいこと
2024/03/15 8:22	2024/03/15	426	36.3℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	9時~10時	6時~7時	出した	1時解すついでに授業で
2024/03/15 8:11	2024/03/15	426	36.9℃	元気	両方着てきた	のびていない	たくさん暑へた	8時~9時	5時~6時	出した	朝顔が咲いた撮影も頑張
2024/03/15 8:14	2024/03/15	426	36.3℃	元気	両方着てきた	のびていない	たくさん暑へた	8時~9時	6時~7時	出した	グー・ビタ・ピン
2024/03/15 8:14	2024/03/15	426	36.1℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	10時~11時	6時~7時	出した	グー・ビタ・ピン
2024/03/15 8:22	2024/03/15	426	36.9℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	10時~11時	6時~7時	出した	ぐーびたピン
2024/03/15 8:06	2024/03/15	426	36.3℃	元気	両方着てきた	のびていない	たくさん暑へた	8時~9時	6時~7時	出した	グー・ビタ・ピンを整理
2024/03/15 8:11	2024/03/15	426	36.3℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	11時~12時	6時~7時	出した	グービタピン
2024/03/15 8:09	2024/03/15	426	36.8℃	元気	ハンカチは拭か	のびていない	少し暑へた	9時~10時	6時~7時	出した	ぐーびたピン
2024/03/15 8:06	2024/03/15	426	36.4℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	9時~10時	6時~7時	出した	グービタピン
2024/03/15 8:11	2024/03/15	426	36.2℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	10時~11時	6時~7時	出した	ぐーびたピン
2024/03/15 8:11	2024/03/15	426	36.9℃	元気	両方着た	のびていない	少し暑へた	8時~9時	5時~6時	出した	ぐーびたピン
2024/03/15 8:08	2024/03/15	426	36.9℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	9時~10時	6時~7時	出した	グービタピン
2024/03/15 8:11	2024/03/15	426	36.4℃	元気	両方着てきた	のびていない	たくさん暑へた	8時~9時	6時~7時	出した	グー・ビタ・ピン
2024/03/15 8:11	2024/03/15	426	36.9℃	元気	両方着てきた	のびていない	たくさん暑へた	8時~9時	5時~6時	出した	朝顔を整理するためのグ
2024/03/15 8:11	2024/03/15	426	36.3℃	元気	両方着た	のびていない	少し暑へた	9時~10時	5時~6時	出した	10分グービタピンをす
2024/03/15 8:09	2024/03/15	422	36.7℃	元気	両方着た	のびていない	たくさん暑へた	8時~9時	6時~7時	出した	グー・ビタ・ピンを拭
2024/03/15 13:0	2024/03/15	422	36.9℃	元気	両方着てきた	のびていない	たくさん暑へた	9時~10時	6時~7時	出した	濡れたらさつぐービタ
2024/03/15 8:14	2024/03/15	422	36.4℃	元気	両方着てきた	のびていない	少し暑へた	9時~10時	6時~7時	出した	きをつける
2024/03/15 8:14	2024/03/15	426	36.3℃	元気	両方着てきた	のびていない	たくさん暑へた	8時~9時	6時~7時	出した	グー・ビタ・ピン

図6 健康観察フォームの一覧

B) OJT や外部との連携

OJT や研究交流, 各団体との連携について, 表1のとおり充実した取組を進めることができた。

表1 今年度のOJT や研究交流, 各団体との連携

OJT	交流	連携	期日(曜日)	内容	団体
●			4/18(火)	OJT①:Google Classroom 活用	
●			4/26(火)	OJT②:Google Forms 活用	
	●		5/13(土)	令和5年度放送教育研究会全国大会実践提案事前研修会①	全放連
●			5/17(水)	OJT③:デジタル教科書活用	
●			6/13(火)	OJT④:NEW 教師用 PC いろいろ接続・設定	
	●		6/21(水)	研究交流①:七飯町立藤城小①研修日に向けた動画提供(Chromebook 活用)	
	●		6/25(日)	教育放送企画検討会議	NHK
	●		7/ 8 (土)	全国 GIGA 利活用推進キャラバン~3 年目以降の活用推進に向けた実践紹介とこれからの教員の働き方について考える全国キャラバン @函館	Google
	●		7/12(水)	研究交流②:七飯町立藤城小②本校授業参観(4年算数:Chromebook 活用)	
●			7/14(金)	OJT⑤:Padlet 活用(職員間での試行開始)	
●			7/18(火)	OJT⑥:Kahoot! 活用(実践例事前紹介)	
	●		7/21(金)	令和5年度放送教育研究会全国大会実践発表事前研修会②	全放連
	●		8/ 1 (火)	令和5年度北海道地方放送教育研究協議会 夏季特別研修会	道放教
	☆		8/ 4 (金)	道南情報教育研究会ネットワーク夏期実技講習会 ※実践発表①	
●			8/20(月)	研究交流③:松前町立小島小出前授業(プログラミング:BOLT)	
●			8/24(木)	研究交流④:函館市立北美原小出前講座(ICT 活用)	
	☆		10/ 8 (土)	令和5年度日本教育大学協会研究集会 ※実践発表②	教大協
	☆		11/ 5 (金)	第74回北海道放送教育研究大会・第68回北海道視聴覚教育研究大会 ※実践発表③	道視連
	☆		11/11(土)	第27回視聴覚教育総合全国大会・第74回放送教育研究会全国大会 ※実践発表④	全放連 全視連
●			12/19(火)	「桃太郎電鉄 教育版 Lite」登録完了・使用開始	KONAMI
●			12/27(火)	道南情報教育研究会ネットワーク冬期実技講習会	
	☆		1/10(水)	令和5年度北海道地方放送教育研究協議会 冬季特別研修会 ※実践発表⑤	道放教
●			1/22(月)	「みんなで生成 AI コース」登録完了・使用開始	みんなの コード
●			1/26(金)	電子黒板「レグザキャンバス」設置・使用開始	REGZA
●			2/20(火)	研究交流⑤:函館市立北星小 出前研修(健康観察フォーム)	
●			2/26(月)	研究交流⑥:松前町立大島小 出前授業・講座(ICT:Canva 活用)	
●			2/29(木)	研究交流⑦:奥尻町立奥尻小の先生参観, 授業交流, 交流会配信協力	

* 上記の他, 道南情報教育研究会ネットワークと共同での研究部会を8回, 授業撮影協力および公開授業研究会の運営協力をした。例会学習会への参加および情報提供を5回実施した。

C) 評価・分析

昨年度までの3年間で、総計5回であったデジタル推進（ICT活用やプログラミングも含めて）に関する研究交流を、今年度一年で6校（7回）実施し、ニーズに合わせて効率化や一般化を図ることができた。また、2学期以降は減少したもののOJTを6回実施、各団体と連携した実践発表（学会や全道・全国大会発表、実技講師含めて5回）を積極的に取り組むことができた。

また、本校の年度末反省会議にて、教職員への選択式アンケート（図7・図8・図9）と記述式アンケートを実施し、本研究の評価および回答や取組について、デジタル推進部と教務主任、支援員、本校准教授で協議・分析した。

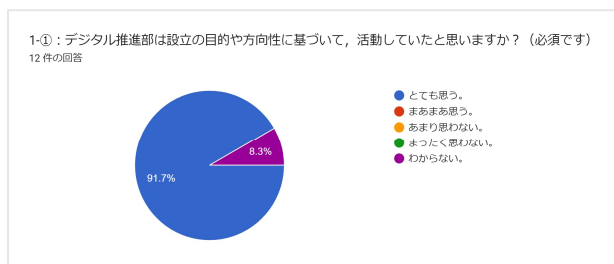


図7 デジタル推進部の目的や方向性への回答

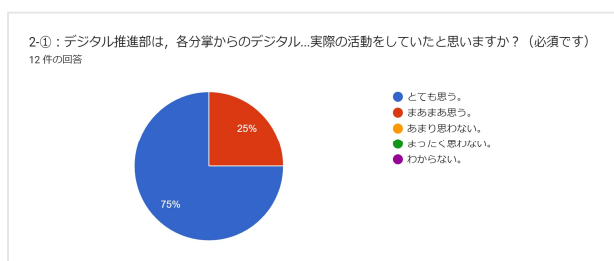


図8 デジタル推進部の各分掌への貢献度の回答

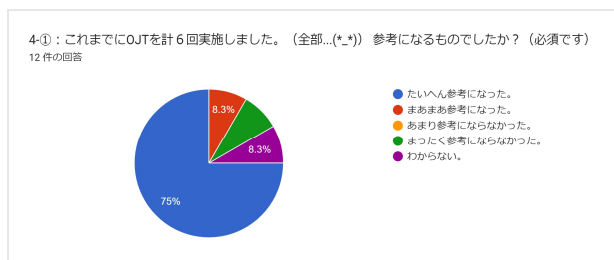


図9 デジタル推進部 OJT の参考度の回答

デジタル推進部の設立の目的や方向性とそれらに基づいた活動については、多くの賛同があり、他校へも輸出可能になった。運営推進を図り、必要不可欠な時期に、適切な活動を行い、効率化が進んだという意見が多くあった。

次年度も継続して取り組んでいき、道南情報教育研究会ネットワークとの連携を通して、各学校にも本校デジタル推進部の取組をさらに発信することにした。

保健体育部の依頼による健康観察フォームのほか、生徒指導部の依頼によるDC教室、もとは教務部や研究部が担当していた端末管理や活用について、参考になった・効果的であったという意見が多かった。他校にも輸出し、たいへん好評であった。

今後は、デジタル推進部の業務内容について年間を通したスケジュールモデルを位置付けたい。

OJTについては、参考になったという意見が多いものの、目的やニーズに応じた取組が必要という意見もあった。

こちらについても、今後年間を通して位置付けつつ、教職員の意見や要望を随時募集し、より還元できるOJTを実施していくことにした。

5 研究の成果と課題・今後の展望

本研究助成により、各取組を支える接続ケーブルや変換アダプタなどを補充することができ、学校DXに寄与するデジタル推進部の活動環境を整えることができた。

今年度の取組を通して、本校でのデジタル推進の機運が高まり、効率化を目指した教職員間の業務改善につながるとともに、一般化を図る上での研究交流や実践発表を多数行うことができた。

授業改善に向けては、OJTを試行してきたが、さらに効果的な研修を考案していくことが必要である。特に、情報教育基本方針を作成し、購入冊子を各学級担任等へ配付したものの、情報活用能力育成に関する研修の機会を設定することができなかつた。情報教育やデジタル活用について、共通理解を図る取組とともに、各教員がそれぞれの専門性を発揮できることが求められる。デジタル推進部が必要に応じて先頭に立ったり、支えたりすることを目指して次年度の計画を立案したい。

そして今後も、各団体と連携し、開かれた本校の取組と発信を継続したい。